

平成29年度 第1回徳島県企業局「戦略的経営推進委員会」議事概要

1 日 時 平成29年7月25日（火）10時00分～11時15分

2 場 所 県庁6階 企業局会議室

3 出席者 <委員>

濱尾 重忠（座長）（敬称略、以下同）

粟飯原 一平

坂田 千代子

真鍋 恵美子

<企業局>

小原企業局長、杉本次長、

原田経営企画戦略課長、湯浅事業推進課長、

古井自然エネルギー事業化担当室長、大塚土木整備室長、

森政策調査幹

岩田総合管理事務所長

4 会議次第

（1）開会

（2）企業局長挨拶

（3）議事

①平成28年度決算概要について

②企業局経営計画の平成28年度進捗状況について

③その他

【配布資料】

資料1 平成28年度決算概要について

資料2 「企業局経営計画の平成28年度進捗状況及び評価」について

参考 徳島県企業局経営計画

5 議事概要

（1）議題1 平成28年度決算概要について

配布資料に基づき、事務局から説明を行い、質疑応答。

（2）議題2 企業局経営計画の平成28年度進捗状況について

配布資料に基づき、事務局から説明を行い、質疑応答。

（3）その他

<質疑応答>

議題1 平成28年度決算概要について

[委員]

1 ページ目の水力発電ですが、坂州発電所の発電が0なのは、何か理由があるのでしょうか。

(企業局)

坂州発電所につきましては、平成26年度から大規模改良工事を行っています。現場の方は、平成27年の11月頃から発電停止しまして、現在も工事中です。

[委員]

いつ頃から稼働するのでしょうか。

(企業局)

一応、今年度いっぱいかかる予定です。

[委員]

電力それから懸念されていた駐車場なんかも48・3%の増と数字を見るとすごくいい結果となっていると思います。

去年、川口ミュージアムのオープンをしまして、数字だけをみると、社会貢献もさらにアップしたと思います。素晴らしい結果がおこったなと思いますが、川口ダムミュージアム関係の数字はどこに出ているのでしょうか。何費でしょうか。

(企業局)

電気事業です。

(企業局)

電気事業会計の営業費用に含まれます。

[委員]

営業費用の中でしょうか。

(企業局)

建物の改良については、資本的支出に入っています。ランニングコストは、営業費用にあがっております。減価償却費等もこの中に含まれています。

[委員]

素晴らしい結果だと思います。少し気になったのは、資本的支出の電気事業の建設改良費が予算より半分以下なんですけど、改良するべきところが改良できなかったんじゃないか

と心配なのですが、大丈夫でしょうか。3ページの建設改良費が39.1%、6ページの建設改良費が41.8%と予算より低くなっていますが、これだけで見ると、改良費が不十分なのではないか、とって思ってしまうのですが。

(企業局)

これは、工事が28年度末までに終わらなかったのが、繰り越したため、決算上は出ておりませんが、今年度、進めています。工業用水道事業の場合ですと、大半の工事は終わっておりますが、今年度末までかかるものもあります。鋭意、進めています。

[委員]

先ほど、原田さんが報告された中で、この予算というのは、年度当初につくりますよね。その後、補正の時に変えるんですか。

(企業局)

補正がある場合があります。

[座長]

2月に変えたとおっしゃられましたね。2月というと、年度としたら、後、1カ月しかないですよ。

(企業局)

2月補正の実際の作業は、1月末くらいからです。

[座長]

1月末からするにせよ、あと、2、3カ月だけですよね。

(企業局)

おそらく4月から12月までの実績と、1月、2月、3月分は想定です。

[座長]

電気事業のみならず、他も補正で変えたということですか。それとも、変えてないものがあるのですか。

(企業局)

変えてないものもあります。

[座長]

4つの事業がありますね。電気は変えたんですね。他は。

(企業局)

工業用水道事業、土地造成、駐車場は変えておりません。

[委員]

電気だけ変えたということですか。電気だけ変えた理由を教えてください。

(企業局)

当初予算につきましては、売電交渉の中で、予定供給電力量が定められておりまして、売電単価をかけたら、当初予算の額になります。年間の降雨量によりまして、発電量に伴います売電収入、これが増減している訳でございます。先ほどの2月補正にかかる分でございますけれども、作業としては、先ほど、原田の方から申し上げましたように、手続きをとりまして、12月までは、実績の売電収入、1、2、3月を予定供給電力量、こちらに基づく売電収入を見込んで、合計を28年度の売電収入見込みとしております。実績といたしましては、2月分の売電料金の予定料金が2億6百万ほどありましたが、1億9千8百万が実績でございます。3月分につきましては、2億2千4百万円ほどが予定料金でございましたが、実績は2億3百万円と予定を下回ってしまいました。電気は、降雨量によりまして、予定とかい離が大きい場合がございますので。

[座長]

今までの12月までの実績がプラスだったのでしょうか。

(企業局)

はい。プラスです。

[座長]

プラスだったので、年間計画より当初計画からさらにプラスに変えたということ。それは、一定のルールを持っているのでしょうか。つまり、12月までの実績がある程度増えてくると、補正の時に変えるというルールがあるのでしょうか。あるいはそうじゃないのか。

(企業局)

実績に基づきまして、年間の予算を見積もります。電気料金については降雨量によって変わります。工業用水道事業、駐車場、土地につきましては、年間を通じて、契約等に基づいて一定でございます。

[座長]

結局、実績にあわせてやったけれども、今回は、そうはいかなかったと。結局、売電量、供給量は上がったんだけど、計画は達成できなかったと、こういうことですか。

(企業局)

そういうことです。

[座長]

今、予算は34億になっていますよね。当初の予算はいくらだったんですか。

(企業局)

水力発電の分でございますけども、29億9千3百万円ほどでございます。

[座長]

34億に対応する予算をお聞かせ願いたいんですが。

水力発電に太陽光がプラスされると思いますが。

(企業局)

今、申上げました、29億9千3百万円が水力発電の分でございます。太陽光発電が2億20百万円でございます。補正をかけましたのが、水力発電の分が8千9百万円プラス。太陽光発電が、2千5百万円プラスです。

議題2 企業局経営計画の平成28年度進捗状況について

[委員]

評価Aが89%とすばらしい成果を上げておられていると思いますが、気になるのは、「C」のところ。「組織の人員配置の弾力化」のところは、「C」になっていて、また、予定外の退職があったこともおっしゃられていましたので、これだけの「A」の結果を出すために、かなり人間的に無理があったりとか、残業があったりとか、労働環境の方が心配されるんですが、その辺はいかがでしょうか。

(企業局)

労働環境については、企業局の場合は、三六協定をまいて、労働基準監督署に届け出ています。普通の一般行政と異なる制度となっていますので、超過勤務については、割とできないような制度となっています。勤務状況については、非常に人員が足りない、厳しい状況ということではありません。

(企業局)

平成29年度につきましては、本局への職員配置も3名、他部局への職員派遣も1名と改善の方向でございます。

[委員]

川口ダムですが、私の娘が幼稚園に行っておりまして、5月のゴールデンウィークの前と夏休みの前に、川口ダムのミュージアムのイベントの案内のチラシが入っています。見て、いつも行きたいなあと思っているのですが、実際に行かれている方達も多いと思います。幼稚園にチラシを配られているのだと思いますが、この評価のところに、そういうのもやっていますと入れたらいいではないかと思いました。

フェイスブックもされていて、川口ダムの周辺の記録というのをいつも見させていただいています。「情報収集の強化」の「ホームページでの意見徴収」というところで、アクセス数が約7,000件とありますが、「情報発信」としては、評価すべきところと思いますが、これは、意見を入れるというところで評価をされているのが、合っているのかなと気になったんですが。

(企業局)

SNSで意見をいただいた中で、自然エネルギーミュージアムのパンフレットを英語版で作成できないかというような内容がございました。

[委員]

ホームページでは意見を入力するところがあるんでしょうか。

(企業局)

ホームページでもございます。

[委員]

意見の入力の返信の実績があるんですか。

(企業局)

過去になりますが、一応ございます。

[委員]

どちらかという、SNSの方が反響があるんでしょうか。

(企業局)

そうですね。

(企業局)

ホームページ上の意見ですが、平成26年度に1件いただいただけです。フェイスブックの方が、時々のご意見をいただけるようになるのかなというふうに思います。

[委員]

返信しやすいんですかね。

(企業局)

意見入力ホームという形になると、堅苦しいといいますか、なかなか御意見をいただきにくいのかなというところもあります。

[委員]

公有林化についてですが、正木ダムの上流で公有林化しているところはあるんでしょうか。

(企業局)

公有林化ですが、企業局として、森づくり支援ということで、町の方に補助させていただいて、町の方で森を買っていただくということをしていただいているのですが、毎年、企業局で3千万円の予算を用意しております。その予算の内訳として、企業局の発電所がある所在の市町村ということで、那賀町、上勝町、勝浦町の3町になりますが、勝浦水系の勝浦発電所と那賀川水系の3発電所の発生発電量の割合で3千万を按分して配分させていただいています。上勝町と勝浦町が予算3千万円のうち2百万円ずつとなっております。町の方に公有林を購入してくださいとお願いはしているのですが、なかなかそれを活用して公有林化していただくまでにいたっていない状況であり、上勝町と勝浦町では、企業局が支援したお金で、公有林化したという状況はまだありません。

[委員]

公有林化して、例えば、常緑樹を植えるとかやっているんですか。そこまでは、やっていないですか。

(企業局)

公有林化して、町の方で、管理していただいています。間伐とかはやっていただいています。

[座長]

もうひとつの「C」で「雑用水の利用拡大」がございますね。雑用水を利用しようとすると、事業者の皆さん方は、この水の利用料金以外に、何かをひくとか資本的支出をしなければいけないとかはありますか。

(企業局)

今、御質問をいただいた、雑用水の新たな契約ですが、工業用水管が通っているところまで、ユーザーさんの方から新たに水を取りにきていただく必要があります。その辺が、水道と工業用水の差で、初期のコストがどれくらい解消できるかというところが一番の判断基準になると思います。

[座長]

そうすると、工業用水管が通っているところの近くの事業主さんになんとか御相談して使ってもらおうということになるんですね。

(企業局)

まずは、そういうことになりますね。積極的にアプローチをしてですね。

[座長]

工業用水というと普通に使えるのかなと、なんとなく言葉の印象でします。

(企業局)

今回、渇水が起きたときに、緊急的に上水が使えないか等検討いたしました。上水と工水とは違っていて、上水は、塩素が入っています。会社によって、工水の方がいい、上水の方がいい、とかそれぞれあるようです。

[座長]

非常に「A」が多くて、非常に結構なことですが、特に、「C」項目につきましては、さらに御努力をお願いしたいと思います。

[委員]

土地造成事業をもう少し積極的にやっていただきたいと思います。高台移転とかやりたいところがたくさんありますが、なかなか用地がないんですよね。特に吉野川沿い、他の河川の流域とか南の方など。南海トラフに備えて、高台移転を考えているところは、結構ありますが、適当なところがない。

(企業局)

企業局の方では、今まで造成してきた工業団地については完売したということで、これからについては、各企業さんのオーダーメイド方式でということで、計画上は整理をさせていただいております。まずは、企業関係の窓口である、商工労働観光部とも十分連携をとりながら、企業さんの方にどういったニーズがあるのか把握をしていきたいというふうに思っています。南海トラフの地震が起これば、津波がくるし、下流域の部分がほとんど液状化で大きな被害を受けるということが想定されます。中央構造線の活断層で地震が起これば、どれくらいの被害が出るのかという被害想定が、今日、発表されるということを知っておりますので、そういったことも踏まえまして。

[委員]

セクションとしたら、企業局の前にやらなきゃならないセクションがあるのかもしれないですね。土地造成ですが、土地に対する規制があって、なかなか難しい部分があるんです。商工とか危機管理とか連携を広めていただいて、いろんな情報を入れて、企業局は企業局としての取り組みをお願いできればと思います。